

全体評価

1 総評

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。 ※第3期中期目標 前文</p> <p>第3期中期目標期間（令和3年度から令和8年度まで）の初年度となる令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部を開催し、学生・教職員に対するワクチンの職域接種の参加を決定するなどの対応から、学内でクラスターを発生させることなく対面授業を継続したことや、ICT等の代替手段を含めた工夫は、高く評価できる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しつつ、収束後には、学生の活動への積極的な支援や地域貢献活動の拡大を期待する。</p> <p>志願者確保に向け、高校訪問などの従来の取組に加え、学内でのデータ分析を基にしたWebによるダイレクトメールを送信する新たな取組により、目標値である定員の3倍を上回る4倍の志願者を確保したことについて、評価できる。</p> <p>その他の項目についても、順調に進捗しており、令和3年度の年度計画については、中期目標の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したものと評価できる。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大という困難な状況下でも、ICT等を活用し代替手段を講じることで着実に目標を達成しており、評価できる。</p> <p>○対面授業を実施し、クラスター発生件数が0件であった点は高く評価したい。</p> <p>○コロナ感染拡大が青森県内においても何度かあり、業務執行に多くの制約がある中で、小項目評価でC評価、D評価が0件であり、計画の実行に対する本学の意欲と代替手段を含めた工夫が表れているものと評価する。</p> <p>○特に評価できる取組みは以下のとおり。 【教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）】 ・アクティブラーニング室の増設 ・ICTを活用したリモート留学大学の増加 ・一般選抜における定員の4倍以上の志願者確保 ・キャリアセンター相談業務におけるWEBツールの活用 【その他の業務運営に関する重点目標を達成するための措置】 ・感染症対策及び危機管理対策本部の対応によるクラスター発生防止及び対面授業の維持</p> <p>○新型コロナウイルス感染症への対策として、学生・教職員のワクチン職域接種への参加やイベント等の原則中止を決定するなどの危機管理対策本部の取組については評価できる。</p> <p>○コロナ禍から脱却できた段階で、被害を受けた在学生の活動を積極的に支援すべきである。また、コロナ禍が今後も長期に継続すると判断するならば、計画自体を見直す必要があると考える。一方で、厳しい運営状況にも拘わらず、数多くの新たな試みなども実施しており、教育の質向上に努力している姿が窺える。</p> <p>○地域貢献活動についてはコロナ禍の影響などによって評価件数自体が大幅に減少する大きな制約の中で、一定程度の成果を上げており、コロナ感染収束後の活動拡大が望まれている。</p> <p>○高校訪問やオープンキャンパス、高校関係者との懇談会など従来の取組に加え、学内でのデータ分析を基にしたWebによるダイレクトメールを送信する新たな取組から、目標を上回る志願者を確保したことは評価できる。</p> <p>○特に評価できる取組みは以下のとおり。※再掲 【教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）】 ・アクティブラーニング室の増設 ・ICTを活用したリモート留学大学の増加 ・一般選抜における定員の4倍以上の志願者確保 ・キャリアセンター相談業務におけるWEBツールの活用 【その他の業務運営に関する重点目標を達成するための措置】 ・感染症対策及び危機管理対策本部の対応によるクラスター発生防止及び対面授業の維持</p> <p>○全体の評価として、中期計画達成に向け順調に進捗しているものと考えられる。</p> <p>○教育研究等の質の向上目標(教育)については、一部の事業実施ができていない項目もあったが、全般的には教育環境の着実改善が継続していることが示された。しかし、コロナ禍の影響で年次計画内容の成果を上げられずに業務評価を落とす場合もあったが、ここでは判断基準を変えずに対処すべきと考えた。</p>

委員意見を踏まえた令和3年度業務実績評価（案）

2 業務の実施状況

教育研究等の質の向上（教育及び研究）に関して、新型コロナウイルス感染症の対策を行い、対面授業を継続して実施している。
 アクティブラーニング室の増設により、授業数が令和2年度の379コマから436コマへと増加しており、学生の主体的・能動的学習が実施されている。
 ICTを活用したリモート留学や海外大学との研究事業を実施している。
 志願者獲得に向け、高校訪問等に加え、データ分析に基づくWebダイレクトメールを発信し、定員の4倍となる志願者を確保している。
 自治体や地域の企業・団体等との連携による地域貢献に取り組んでいる。
 業務運営の改善及び効率化に関して、市の人事評価に準じた事務職員の人事評価を本格的に実施するとともに、教員職員については、中期計画期間中の本格実施に向けた2回目の試行を実施している。
 経営・財務内容の改善に関して、財務状況の分析による予算執行や、スクラップ・アンド・ビルドによる予算編成に取り組むとともに、科学研究費補助金等の外部研究費の申請や企業等への寄附の働きかけに加え、国際芸術センター青森について、ドネーション方式により自己収入の確保を図るなど、外部資金の獲得を図っている。
 その他業務運営に関して、学内の施設・設備の修繕や定期的な点検、安全管理やハラスメント防止に関する取組を行っている。

全体評価

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>安定した財務環境を維持するため、入学定員の確保、外部の研究資金の獲得等による自己収入の確保に向けた取組を求める。</p> <p>大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数の確保並びに事務職員の欠員解消や事務局組織体制の強化に向けた取組を求める。</p> <p>国際芸術センター青森について、PR強化による自己収入の確保及び積極的な活用を期待する。</p>	<p>○財務内容の改善では<u>毎年の安定した入学定員の確保が最大の財務対策であり、引き続きの努力が必要とされる。</u></p> <p>○研究の質向上においては、コロナ禍の影響を強く受けている。しかし、研究シーズを継続的に育て上げて外部の研究資金の獲得に向けて、より積極的に研究活動に注力することが期待される。</p> <p>○<u>大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数の確保及び事務職員の欠員解消や安定的な大学運営のための事務局体制強化への対応を求める。</u></p> <p>○業務運営の改善については、今後に大学評価基準の充実や内部質保証などに関連した事務量の増加が見込まれ、<u>組織人材の見直しを図って緊急時や長期的な課題に対応できる「ゆとり」を確保することが期待される。</u></p> <p>○<u>国際芸術センター青森のPR強化により、自己収入の増加を図るよう努めていただきたい。</u></p> <p>○その他業務については、諸施設の管理・運営や防災活動、健康管理などの様々な活動分野で適切な運営が行われている。これに加えるならば、青森公立大学らしさが増幅される特徴的な活動や施設充実が期待される。例えば、アートに強い大学として<u>国際芸術センターを積極的に活用していく戦略展開なども想定される。</u></p>

委員意見を踏まえた令和3年度業務実績評価（案）

項目別評価

1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>長引く新型コロナウイルス感染症の影響下において、対面授業を継続するとともに、ICTを活用したリモート留学を実施し、教育の実施体制の確保に取り組んだことは評価できる。今後、派遣留学の再開に向けた取組を期待する。</p> <p>ICTを活用した海外大学とのゼミ活動については、今後の大学教育の可能性の一つであるものと考え、今後の取組に期待する。</p> <p>また、アクティブラーニング室の増設により、昨年度の379コマから57コマ多い436コマの授業等の利用実績となり、修学環境の充実が図られたことは評価できる。</p> <p>今後は、アクティブラーニング機能の更なる拡充や大学院での問題解決型学習の開発などに期待する。</p> <p>GPA（成績評価平均値）に基づく成績評価における成績不振者への個別面談者について、春学期の60人から秋学期3人と大幅に減少しており、効果的な措置として評価できる。</p> <p>学士課程について、高校訪問やオープンキャンパス、オンライン進学説明会の実施に加え、データ分析による情報を活用した広報活動により、目標であった定員の3倍を上回る4倍の志願者を確保したことは評価できる。</p> <p>大学院課程については、各種PRやオンラインによる相談体制の充実を図り、昨年度と比較して志願者が増加したことは評価できるが、引き続き、進学相談体制の充実にも努めるとともに、Zoom等の新たなツールの活用も検討するなど、入学定員の充足に向けた取組を実施するよう期待する。</p> <p>学生のキャリア支援について、県内企業バスツアーの拡充や企業人事担当者によるインターンシップガイダンスの実施、オンラインによる相談、面接練習の取組などの実施により、全国平均を上回る高い就職率を確保したことは評価できる。</p> <p>国際芸術センター青森を活用した授業が計画されるなどの様々な取組により、学生の教育環境が着実に向上していることについては評価できる。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大という困難な状況下でも、ICT等を活用し代替手段を講じることで着実に目標を達成している。</p> <p>○自己評価AのICTを活用したリモート留学について、スターリング大学を追加で実施し、年度計画を上回っており、特に評価できる。</p> <p>○長引く新型コロナウイルス感染症の影響下において、対面授業を継続するとともに、ICTを活用したリモート留学を実施し、教育の実施体制の確保に取り組んだことは評価できる。</p> <p>●他大学との単位互換の中止と海外留学のリモート留学への変更について、コロナ禍が原因ではあったが、実際に計画が実施されておらず、C評価は避けられない。</p> <p>○ICTを活用して海外大学とゼミ活動を展開しており、今後の大学教育の可能性のひとつといえる。</p> <p>○自己評価Aのアクティブラーニング室の増設については、計画どおり1室を増設し、その結果、活用実績が対前年比+57となり、年度計画を上回って実施しており、特に評価できる。</p> <p>○アクティブラーニング機能の更なる拡充や大学院での問題解決型学習の開発などが期待される。</p> <p>○B評価をA評価とランクを上げた項目は、成績不振者に対する面談措置であり、春・秋間で面談実施件数が1/20に激減しており、効果的な措置であったといえる。</p> <p>○コロナ禍の中で、学生の県内志向の高まりは推定されるものの、本学への志願者獲得のための高校訪問、進学説明会の実施等の地道な努力が、定員の4倍となる志願者の獲得につながる一因になったものと評価する。</p> <p>○一般選抜において、定員の3倍程度の志願者確保を目標としていたが、定員の4倍となる560人の志願者を確保し、年度計画を上回って実施しており、特に評価できる。</p> <p>○学士過程の志願者確保に向け、高校訪問に加え、オンラインによる進学説明会等を多く実施し、目標値を上回る志願者を確保したことは高く評価できる。</p> <p>○入試の志望者確保の業務に係わってデータ分析の情報を活用していることは効果的である。質の高い入試活動が展開され、定員の4倍程度の志願者を確保できた1因といえる</p> <p>●自己評価のA評価をB評価とランクを下げた項目は、入試選抜試験の変更情報の高校等への情報提供であるが、当然の措置であってB評価が妥当と考える。</p> <p>○コロナ禍によって一部の計画は実施されなかったが、ICTを活用した新たな取組みやデータ分析情報を活用した大学らしい活動の高度化も行われ、国際芸術センター青森を活用した授業が計画される等の様々な努力が展開され、学生の教育環境が着実に向上されていると思われる。</p> <p>○大学院の志願者についても、各種PRや相談体制の充実を図り、昨年度と比較して志願者が増加したことは評価できるが、取組を継続し、入学定員の充足を図るよう期待する。</p> <p>●小項目評価は7件のうち6件はA評価が適当と認める。残り1件のオンライン等での進学相談の実施については、電話相談3件中1件が入学に至ったことを理由にA評価としているが、電話は従来型のツールであり、A評価とする根拠は弱いと考える。また、Zoom等の新たなオンラインツールの活用を検討する必要があると考える。</p> <p>○県内企業バスツアーの拡充などキャリア支援の充実した取組により、依然として高い就職率を確保したことは評価できる。</p> <p>○学生の就職活動を支援する県内企業バスツアーは参加学生数や協力企業・団体が多く、高い就職率の確保に寄与している。また、企業人事担当者によるインターンシップガイダンスは、学生と企業の双方に刺激的な活動といえる。</p> <p>○キャリアセンターの相談業務において、Webツールの活用を図り、相談、面接練習ともに5割弱がWebにより実施され、年度計画を上回って実施しており、特に評価できる。</p> <p>○コロナ禍によって一部の計画は実施されなかったが、ICTを活用した新たな取組みやデータ分析情報を活用した大学らしい活動の高度化も行われ、国際芸術センター青森を活用した授業が計画される等の様々な努力が展開され、学生の教育環境が着実に向上されていると思われる。※再掲</p>

委員意見を踏まえた令和3年度業務実績評価（案）

2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>新型コロナウイルス感染症の影響下、オンラインを活用し海外の研究者と研究事業を実施したことや、青森市や関係団体と連携しリモートワーク・ワーケーション体験事業に参画したことなどについては、評価できる。</p> <p>「大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する取組」について、顕彰実績が令和元年度から該当者なしとなっており、今後の研究成果を期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○<u>新型コロナウイルス感染症の影響下、オンラインを活用し海外の研究者と研究事業を実施したことは評価できる。</u></p> <p>○<u>コロナ禍にあってもZoom等を利用して海外研究者と研究したり、リモートワーク・ワーケーション体験事業を手掛けるなどの努力も見受けられるが、これはA評価とすることが妥当と考える。</u></p> <p>○<u>評価項目数が少なくコロナ禍で幾つかの項目が計画未達となると、全体の大項目評価が大きく下がることになる。現在の評価システムがコロナ禍を想定していないものとなっており、これを是正するには評価項目を対象から除外するしかないと考える。</u></p> <p>○<u>長期的に青森公立大学が得意とする研究領域が確立され、その分野の研究者の交流拠点になっていくことが期待される。</u></p> <p>○<u>公開講座について、新型コロナウイルス感染症の影響は理解するが、数値目標を5と設定しているところ、実績は3であったので、「開催に向けて準備を行っていたが、青森県の要請により、会場が借用できなくなったため急遽中止した。」というような詳しい説明が必要と考える。</u></p> <p>○<u>「大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する。」の項目について、令和1年度から3年間、該当者がいない。今後の研究成果に期待したい。</u></p> <p>○<u>研究成果の顕彰実績が3年連続該当者なしであるが、令和4年度には期待したい。</u></p> <p>○<u>戦略的研究助成を受けながら表彰に値する研究が過去3年間ないことやコロナ禍の影響でサバティカル制度が実施されなかったこと、まちなかラボが十分に活用されていないことはC評価とも判断される。</u></p>

3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>青森市との連携による移住・定住に関する研究をはじめとする県内自治体との連携した取組や、公益財団法人21あおもり産業総合支援センターとの連携による起業・創業セミナーの開催など、学生が地域の課題解決や活性化に向けた取組に積極的に参加し、地域貢献に取り組んだことは評価できる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の収束とともに、更なる地域貢献活動の充実が図られるよう期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○<u>地域の自治体、各団体、企業等と連携して様々な活動を実施しており、評価できる。</u></p> <p>○<u>多くの地域貢献事業や会議、地域活性化のためのイベント等へ学生も含め参画し、地域の大学として計画は順調に進捗しているものと評価する。</u></p> <p>○<u>公益財団法人21あおもり産業総合支援センターとの連携による起業・創業セミナーの開催や、青森市との連携により移住・定住に関する研究を行うなど、地域の人材育成や人材定着に取り組んでいることは評価できる。</u></p> <p>○<u>中泊町と浪岡地域調査・研究の受託実施については、A評価の認識であり、学生ビジネスアイデアコンテストへの取組みと受賞、「大学がもたらす経済効果」に関する4年間の共同研究の報告書作成についてもA評価が妥当と思われる。</u></p> <p>●<u>公立はこだて未来大学との交流事業の中止はC評価とせざるを得ない。</u></p> <p>○<u>この領域の小項目は令和2年度では37件であったが、令和3年度には18件と大幅に減少している。</u></p> <p>○<u>多分にコロナ禍の影響と思われる、学生や教員の地域貢献の活動が制約されたためと推察される。</u></p> <p>○<u>各種イベントの中止や活動制限が一般的となり、全滅しなかっただけ良かったということでしょうか。</u></p> <p>○<u>コロナ禍の収束と共に、大学の地域貢献活動が以前のように活性化していくことを期待する。</u></p>

委員意見を踏まえた令和3年度業務実績評価（案）

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>青森市の制度に準じた事務職員の人事評価を本格的に実施するとともに、教員の人事評価についても、本格実施に向けた2回目の試行を実施したことについては評価できる。人材育成と学内組織の活性化に向け、早期の本格実施を期待する。</p> <p>大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数を確保するための取組並びに事務職員の欠員解消や事務局組織体制の強化に向けた取組を求める。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○市の制度に準じた能力評価及び業績評価を本格的に実施した点は評価できる。</p> <p>○教員をはじめ教育・研究も含めた業務運営に必要な職員を確保、計画の実施体制を整備し順調な進捗と評価する。</p> <p>○人事評価について、事務職員の本格実施や教員の2回目の試行を踏まえ、<u>教員の人事評価については人材育成と学内組織の活性化に向け、できる限り早期の本格実施に期待したい。</u></p> <p>○大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数の確保するための取組のみならず事務局の組織体制を強化するための取組に努めていただきたい。</p> <p>●事務職員に人員不足をきたして管理職がそれを兼務する人員配置体制が取られたことは、C評価とする。<u>人員不足が常態化して職員モラルの低下を促す恐れもあり、研修時間も含めれば一定程度の人的余裕も不可欠である。</u></p> <p>○コロナ感染状況が収束していない状況でも、大学運営に係る様々な業務は発生しており、安定的かつ効率的に各種の業務を遂行していく必要がある。</p> <p>○長期的な視野に基づいて業務のデジタル・グローバル化などへの先行的かつ効率的な業務遂行体制を構築していくことが期待される。</p>

5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>受験生確保に向けた積極的な取組による検定料の増加や、科学研究費補助金等の外部研究費の申請数の増加など、自己収入の増加に努めた点については評価できる。</p> <p>引き続き、外部資金獲得の取組を継続するとともに、研究関連収入に関する目標値について、申請件数ではなく獲得件数に切り替えるよう求める。</p> <p>また、国際芸術センター青森について、PR強化による自己収入確保及び積極的な活用を期待する。</p> <p>予算執行に当たっては、財務状況の分析による支出内容の精査や業務改善・事務事業の効率化に努めるとともに、予算編成に際しては、費用対効果の観点からの事業見直しやスクラップ・アンド・ビルドを行ったことについては評価できる。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○科学研究費補助金等の外部研究費の申請件数は数値目標を上回っており、評価できる。</p> <p>○外部研究費の申請は、数値目標を設定している小項目であり、11件以上の目標に対し、12件の実績であることから、内容について、更にアピールできるものがあれば、自己評価をAとしても良かったのではないかと思う。</p> <p>○積極的な受験生の確保対策を講じたことによる検定料の増加や、研究費用等の外部資金の獲得に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>●外部資金の獲得に関してはB評価としており、科研費の獲得に向けた申請数を数値目標として設定している。しかし、<u>できるだけ早期に申請件数ではなく資金獲得件数に目標を切り替えていく必要がある。</u>資金獲得のための先行研究や研究人脈形成、中核研究者の育成、科研費採択動向の把握等の具体的な準備活動の拡充が不可欠であると想定される。</p> <p>○国際芸術センター青森の年間事業協力金の獲得に向けた試みについては、<u>充実した芸術活動を継続していくためにも収益活動が必要であり、この活動はA評価に値する。</u></p> <p>○引き続き外部資金獲得のため取組を継続していただくとともに、<u>国際芸術センター青森については、県内にある美術館等との5館連携による取組を充実させるなど、魅力ある企画の実施と、より一層のPRを図り、自己収入を増やすよう努めていただきたい。</u></p> <p>○財務状況の分析による効率的な予算執行や、<u>費用対効果、スクラップ・アンド・ビルドの実施による予算編成を行ったことは評価できる。</u></p> <p>○<u>予算編成時に事業の費用対効果を踏まえてスクラップ・アンド・ビルド方式で各事業を見直している業務もA評価になると判断する。</u></p>

委員意見を踏まえた令和3年度業務実績評価（案）

6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>本委員会の評価結果や意見を踏まえた業務改善の取組を継続するとともに、改善状況や業務実績、財務状況等をホームページで公表するなど、積極的な情報公開に取り組み、大学運営の透明性を確保していることは評価できる。</p> <p>認証評価制度に適切に対処していくため、継続的・計画的に変革していく取組を期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本委員会の評価結果や意見を踏まえた業務改善の取組を継続するとともに、改善状況や業務実績、財務状況等をホームページで公表するなど、積極的な情報公開に取り組んでいることは評価できる。 ○大学の財務状況や業務実績などの大学運営に係る情報を大学のホームページで公開して、大学運営の透明性を確保している努力はA評価に値すると考える。外部に情報公開することは、学内で様々な規律を強化することに直結することになると思われる。 ○自己点検・評価については、制度見直しに応じた体制整備や教職員の意識改革が求められる。特に評価指標の設定とそれに伴うデータ・エビデンスの確保が継続的に発生してくる。※総評から転記 ○文部科学省では中央教育審議会における認証評価制度の改善に向けた検討を受けて、大学の評価基準として3つの方針(卒業認定・学位授与の方針&教育課程編成・実施の方針&入学者受入れの方針)を一貫性のあるものとして作成・公表することと、教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組み(内部質保証)を求めて客観的なデータや指標などのエビデンスを求めている。これに適切に対処していくためには、教職員・法人運営者が一体となって大学運営の改革を継続的に進めていくことが求められ、学内に中核となって検討・改善提案していく組織が求められる。単年度での対応は困難であり、継続的・計画的に変革していく努力が必要である。 ○青森公立大の3ポリシーの見直しや内部質保証の改善措置等を踏まえれば、大学の中期計画などの内容確認や見直し作業も必要になってくるとされる。

7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>新型コロナウイルス感染症に関する適時適切な情報収集と危機管理対策本部による的確な対処により、対面授業の継続実施や、学内でのクラスター発生を防止したことは評価できる。</p> <p>学内の施設や設備の適切な運営管理が継続的に行われるとともに、国際芸術センター青森については、市内小学生や市民を対象とした事業を実施するとともに、県内5館の美術館連携による「青森アートミュージアム5館連携協議会」に参画し、共同Webサイトの運営等を行ったことは評価できる。</p> <p>障害のある学生等への配慮について、大学の支援体制の整備に加え、教職員及び学生の意識醸成に向けた取組を期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大の状況で、対面授業を実施し、クラスター発生件数が0件であったことは、特筆すべき成果と考える。 ○コロナ感染情報の適時適切な情報収集と対策本部による的確な対処（例えば青森商工会議所主催のワクチン職域接種への積極的参加など）により、本学においてクラスターを未然防止し、対面授業を春・秋学期を通して実施できたことは高く評価できる。 ○自己評価Aの感染症対策及び危機管理対策本部による対応については、クラスター発生及び対面授業の維持という成果が出ているため、特に評価できる。 ○新型コロナウイルス感染症に関する危機管理対策本部会議を継続し、各種対策を講じたことにより、学内でのクラスター発生を防止できたことは評価できる。 ○市内の小学生を対象とした校外学習の受入れや市民を対象とした展示及びワークショップ等の実施により来館促進に取り組んだことは評価できる。 ○様々な施設管理や運営、防災活動、健康管理などが適切に行われていることがわかる。 ○国際芸術センター青森が5館連携事業として共同Webサイト運営を開始した活動等はA評価とできる。 ○近年では障害のある学生などへの合理的な配慮提供が着実に増加傾向にあり、大学の支援体制の整備にとどまらず、教職員及び一般学生の理解ある行動や意識変革が求められているといえる。